

前回の復習)

先週は私が振内チャペルで奉仕をしたためイザヤ書のメッセージが一週飛んでしまいました。そのため、まずは先々週学んだ 65 章の前半の部分を振り返ってみたいと思います。

前回、65 章の前半から【主】がイスラエルに対して「わたしはここだ、わたしはここだ」と語りかけておられたことを確認しました。神様は、【主】に対して頑なになり、背き続けていたイスラエルに対していつも【主】をみるように語りかけておられ、手を差し伸べ続けてくださっていたのです。

ところが、イスラエルはその【主】の声を無視し、エルサレム神殿ではなく別の園で礼拝をささげたり、自然な石ではなくレンガによって祭壇を作ったりするなどをして、【主】のことばに背き、偶像礼拝や汚れた行いをしているにも関わらず、「私は聖い」と宣言して他の人たちを見下していたのです。

だから、【主】はそんなイスラエルに対して、彼らの罪を見逃さない宣言し、彼らの背きに対する報いを与えると言われたのです。ただし、【主】は正しい神様ですから、多くの人々が【主】に背く中であって、それでも【主】に従い続けようとした「残りの民」に対しては祝福を約束され、【主】に背き、偶像に頼る者たちに対しては、「おまえたちを剣に渡す」と宣言されました。

今日の箇所はその続きとなります。

1) 【主】のしもべと背く者の違い

13 節から 16 節では、【主】に従い続けた「【主】のしもべ」と、【主】に背き続けた「おまえたち」が受ける報いの違いが書かれています。

わかりやすく表にするとこうなります。

【主】に従う者と背く者の報いの比較

分野	【主】のしもべたち	おまえたち (背く者)
食物	食べる (満足する)	飢える

飲物	飲む（満足する）	渴く
感情状態	喜ぶ	恥を見る
心の状態	心の底から喜び歌う	心の痛みによって叫ぶ
霊の状態	（喜びに満ちている）	霊に傷を受けて泣き叫ぶ
名前と記憶	ほかの名で呼ばれる（新しい名）	自分の名をのろいとして残す
生死	（生かされる）	【神】である主に殺される
祝福	まことの神によって祝福される	（祝福を受けられない）
過去の苦難	忘れられ、神の目から隠される	（苦難が続く）

このように見ると、【主】に従う者たちが霊的にも肉的にも、そして、精神的にも満たされ、【主】に背いた者たちはそれとは真逆の結果になることがわかります。この預言は、【主】に従ったからすぐに経済的に満たされ、喜びに満ちるということではなく、最終的な結果として与えられる報いのことを指しています。

しかし、多くのキリスト者たちの証しを見てみると、実際に【主】は従う者を満たしてくださるお方であることがわかります。

例えば、コリー・テン・ブームはという人は、オランダのクリスチャン家庭に生まれ、ユダヤ人をナチスからかくまったために捕えられ、強制収容所へ送られた女性ですが、彼女は収容所で過酷な生活の中で、神様の奇跡を経験しました。

彼女がいた収容所には、栄養が極端に不足し、病気に苦しんでいる女性たちが多くいました。そのような状況の中、コリーは奇跡的に小さなビタミンオイルの瓶を持ち込むことができおり、彼女は、病人たちにそのビタミンオイルを分け与えたのです。

すると、驚くべきことに、その小さな瓶は決して空にならず、必要な女性たちに何度もビタミンオイルを分け与えることができたのでした。コリー自身は、この出来事を通して、旧約聖書に登場するエリアに従ったことで、小麦粉と油が尽きることがなくなり、貧しい状況を乗り越えることができたやもめの話（列王記第一 17:14-16）を思い起こし、「神は必要を満たされる方だ」と確信しました。

また、お隣の韓国でもこのような話があります。

1950年代、韓国戦争の時、多くのクリスチャンが北朝鮮から南へ逃れ、釜山にある難民キャンプで生活していました。そのような状況の中、ある教会の牧師と信徒たちは、何も食べるものがなく、ただただ神様にお祈りをしていました。すると、その翌日、アメリカの宣教師と支援団体から食糧が奇跡的に届けられ、さらには、何もないはずの倉庫から、長期間保存されていた米袋が見つかり、それによって何百人もの人々が生き延びることができたのです。

みなさん、私たちの信じる【主】は、実際的に私たちを霊的にも肉的にも満たし、喜ばせてくださるお方なのです。

## 2) 新しん天と新しい地の創造

しかも神様は私たちを満たしてくださるだけでなく、私たちが住む世界そのものを新しく創造してくださると言われています。17節から19節の前半を読みましょう。

**65:17** 見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。

先のことは思い出されず、心に上ることもない。

**65:18** だから、わたしが創造するものを、いついつまでも楽しみ喜べ。

見よ。わたしはエルサレムを創造して喜びとし、その民を楽しみとする。

**65:19a** わたしはエルサレムを喜び、わたしの民を楽しむ。

【主】が用意される新しい天と新しい地で、【主】の民が楽しみと喜びに満ちて生活することは、【主】にとっても喜びであり、楽しみだといわれています。

神様は、私たちが苦しんで生活することを喜ばれるお方ではなく、むしろ、【主】の前で楽しみと喜びに満たされた生活をするのを喜ばれるお方なのです。

ただ、罪によって呪われてしまったこの世界では、私たちがそのように満たされて生活することは難しい。だからこそ、【主】は新しい世界を創造されるのです。

創造とは、私たち、人間の創作行為とは違います。神様だけがなさることができる行為であり、この世界を良いものとしてお造りになったときと同じ行為を指しています。つまり、神様は、私たちが喜びに満ちた生活をするように、世界そのものを新しく創造してくださるのです。

### 3) 新しく創造された世界

では、そのように新しく創造された世界とはどのような世界でしょうか？19 節の後半から 23 節を読みましょう。

65:19b そこではもう、泣き声も叫び声も聞かれない。

65:20 そこにはもう、数日しか生きない乳飲み子も、寿命を全うしない老人もいない。百歳で死ぬ者は若かったとされ、百歳にならないで死ぬ者は、のろわれた者とされる。

65:21 彼らは家を建てて住み、ぶどう畑を作って、その実を食べる。

65:22 彼らが建てて他人が住むことはなく、彼らが植えて他人が食べることはない。わたしの民の寿命は、木の寿命に等しく、わたしの選んだ者たちは、自分の手で作った物を存分に用いることができるからだ。

65:23 彼らは無駄に労することもなく、子を産んで、突然その子が死ぬこともない。彼らは【主】に祝福された者の末裔であり、その子孫たちは彼らとともにいるからだ。

これらの箇所を読むと、新しい世界とは、悲しみのない世界であり、長寿が約束された世界であり、労働の報いを正しく受けることができる世界であり、子どもものいのちが守られ、信仰と祝福が確実に継承されていく世界であることがわかります。

逆に考えると、神様が望んでいない世界というのは、悲しみがある世界であり、死が身近にある世界であり、人々の労働に対して正しい報いがない世界であり、子どもものいのちが脅かされ、信仰と祝福が子どもたちに引き継がれない世界なのです。

多くの人が【主】に背き、貧しい者や社会的弱者に対するいじめが横行し、正しい裁判がなされず、信仰が正しく継承されていなかった当時のイスラエルの状況は、まさに神様が望んでおられなかった状況でした。

そして、今、私たちが住んでいる世界はどうでしょうか。今の世界もまた、悲しみが溢れ、日本は長寿の国ですけども、でも、世界的にみれば戦争などで死が身近にある人たちが多く、それぞれの労働に対して正しい報いを受けることができず、搾取されている人が多いのではないのでしょうか。

今、日本で自殺する人のうち 60%~70%は男性だそうです。また、自殺の理由として一番大きいものは健康上の問題が一番にあがりますが、それはガンとか、そうゆう病より、うつ病とか、心の病が原因で自殺する人が多いという結果でした。そして、

その次に自殺の理由として多いのが経済や生活の問題ということです。私はこの結果をみて、鬱などの心の問題と経済的問題は無関係ではないのではないかと思います。私自身も経験したことです。働いても働いても正しい報いを受けることが出来ず、心が病み、そして自殺してしまう人も決して少なくないと思います。

こういった点、一つをとっても私たちの世界は、神様が求めておられる世界とはかけ離れているのです。だからこそ、神様は、【主】を信じ従うしもべのために新しい天と新しい地を創造されるのです。

これはヨハネの黙示録で語られていることと共通しています。ただ、聖書をよく理解している人は、イザヤ書 65 章 20 節の預言を読んで違和感を覚えたのではないのでしょうか。なぜならば、ヨハネの黙示録における新しい天と新しい地は、「死がない」と言われているのに対して、イザヤ書では「百歳にならないで死ぬ者」についても語られているからです。実際に二つを比較してみましょう。まずは黙示録 21 章 4 節

#### ヨハネの黙示録 21:4

神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。以前のものが過ぎ去ったからである。」

#### 次にイザヤ書 65:20

そこにはもう、数日しか生きない乳飲み子も、寿命を全うしない老人もいない。百歳で死ぬ者は若かったとされ、百歳にならないで死ぬ者は、のろわれた者とされる。

なぜ、どちらも新しい天と新しい地が造られるという預言なのに、このような違いがあるのでしょうか。それは神様の預言には、少しずつ真理がより正確に示される。という性質があるからです。これを難しい神学用語では漸進的啓示といいます。

漸進的啓示は、神様は少しずつ真理を明確にして教えられた。ということです。

この漸進的啓示という理解にのってイザヤ書と黙示録の違いを解釈すると、福音派で多くの人が信じている解釈としては、ヨハネの黙示録の預言は、まさに新天新地そのものの預言だけども、イザヤ書の預言の方は、千年王国も含めての新天新地の預言だという解釈です。ちょっと分かりづらいですね。

ヨハネの黙示録にかかっている世の終わりの出来事を簡単に紹介すると。

1. 7つの巻物、7つのラッパによる裁き
2. 獣（反キリスト）、偽預言者の出現

3. 7つの鉢による裁き
4. ハルマゲドンの戦い
5. 裁きのためのキリストの再臨
6. キリストの支配による千年王国
7. サタンに対する最後の裁き
8. 新しい天と新しい地の創造

とこのようになります。ヨハネは、イザヤが預言していた「【主】のしもべ」と呼ばれる救い主が、イエスキリストであることを知っており、その十字架と復活を体験していますから、イザヤより、より明確に世の終わりの出来事がわかります。

でも、イザヤは自分が預言していた「【主】のしもべ」とは具体的に誰のことかわからないし、十字架も復活も知りませんから、ヨハネほど明確に世の終わりの出来事を順序立てて理解することができません。

そして、神様は、先ほどいったように真理を少しずつ明確に示されるお方なので、神様がイザヤに預言した時は、**千年王国と新天新地をセット**にして新しい天と新しい地として示されたのだろう。という解釈です。

他にも色々な解釈がありますが、私はこの理解の仕方が一番、聖書全体と一致すると思います。

この1から5の部分で、サタンに対する裁き以外の大半の裁きがなされ、その後には造られるキリストが支配する千年王国は、【主】の王国ですから、多くの人が長生きをして祝福されます。でも罪の元凶であるサタンが裁かれていないので、まだ死はあるのです。

しかし、【主】はそのサタンさえも裁かれて、完全な裁きを成就し、【主】の民には先程確認したような、肉体的にも、精神的にも、そして、霊的にも、喜びと楽しみで満たされる新しい天と新しい地をお与えになるのです。

みなさん、これを聞いてワクワクしませんか？ 私はワクワクします。

多くの方が、今の状況が改善しないからといって絶望し、もう自分の将来は真っ暗闇のように感じています。でも違うのです。例え、今の時代、様々な困難や苦しみがあったとしても、そして、理不尽に思えるようなことがあったとしても、【主】は必ず、キリストが支配される国を建てあげてくださり、そして、やがて私たちに、完全に喜びと楽しみで満たされる世界。悲しみがなく、正しい報いがある平和な世界を私たちに与えてくださるのです。

私たちは、この約束にもっと期待をかけていいと思います。

みなさん、エホバの証人の人たちがなぜ、一生懸命伝道をするか知っていますか？  
彼らはキリストを神と認めておらず、拝むべきお方とも認めていないので、間違っています。世の終わりには神様からの大きな報いがあることを信じているから、彼らは熱心に伝道するのです。

また、初代教会時代のパウロたちも、この世の終わりの約束を信じていたからこそ、まさに命がけで伝道をし、殉教していったのです。

私たちも、【主】が約束されている千年王国や、新しい天と新しい地にもっと期待をして、目先の苦しみを見つめて歩むのではなく、将来の希望に焦点をあてて歩んでもいいのではないのでしょうか。

なぜならば、新天新地の約束は、ただ私たちが喜びと楽しみに満たされるだけでおならず、さらなる祝福を約束しているものだからです。

#### 4) さらなる祝福

24節を読みましょう。

**65:24** 彼らが呼ばないうちに、わたしは答え、彼らがまだ語っているうちに、わたしは聞く。

【主】は今も、私たちの祈りに応え、様々な導きをしてくださいます。でも、時には神様が私たちに何を求めておられるのか、神様が何を言おうとしているのかわからない時があるのではないのでしょうか。また、自分たちの状況を【主】があまりわかっておられないように思う時もあるかもしれません。

でも、新しい天と新しい地においては、私たちが【主】に祈る前から、【主】は答えを下さり、私たちが【主】に語る前から、【主】は私たちの心のうちを聞いてくださるのです。つまりこれは、【主】とより積極的な交わり、豊かな交わりをすることができることを意味しています。

私たちが、【主】と交わりをすることができる。ということは本当に素晴らしい祝福です。しかもですね。その新しい天と新しい地は、私たち人間の状況だけが変わるのではなく、他の被造物の世界にも平和が与えられることが約束されています。

**65:25** 狼と子羊はともに草をはみ、獅子は牛のように藁を食べ、蛇はちりを食べ物とし、わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、滅ぼすこともな

い。——【主】は言われる。」

「狼と子羊はともに草をはみ、獅子は牛のように藁を食べ」・・・肉食動物が肉食ではなくなり、多くの人が普遍的な真理とおもっている弱肉強食な世界ではなくなります。みなさん、よく考えれば弱肉強食って強い世界ですよ。弱肉強食とは、強い者が弱い者を支配し、生存競争において強者が勝ち残る世界のことです。でも、それは神様が望んでいる世界ではなく、罪によって歪んでしまった世界なのです。

実際、創世記を見るとこのように書かれています。

## 創世記

1:29 神は仰せられた。「見よ。わたしは、地の全面にある、種のできるすべての草と、種の入った実のあるすべての木を、今あなたがたに与える。あなたがたにとってそれは食物となる。

1:30 また、生きるいのちのある、地のすべての獣、空のすべての鳥、地の上を這うすべてのもののために、すべての緑の草を食物として与える。」すると、そのようになった。

最初の世界では、地のすべての獣、空のすべての鳥、地の上を這うすべてのもののために、すべての緑の草が食物として与えられていたのです。つまり、最初はみんな草食だった。それで健康が維持できるようにされていたのです。

でも、罪によって世界が歪んでしまったので弱肉強食な世界になり、弱い者には非常に苦しい世界になりました。

しかし、神様はそのような争いの世界をただし、本当の意味で動物を含めて、すべてのものに平和が与えられる世界を造って私たちに与えてくださるのです。

ただし、先程のイザヤ書の25節を注意深くみてください。へびについてはなんと書かれていますか？

65:25 狼と子羊はともに草をはみ、獅子は牛のように藁を食べ、蛇はちりを食べ物とし、わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、滅ぼすこともない。——【主】は言われる。」

「蛇はちりを食べ物とし」これは神様がアダムたちを誘惑したへびに対する裁きが継続していることを意味しています。そして、へびとはサタンの象徴ですから、サタ

ンに対する裁きはなくならないことを意味しています。

つまり、新しい天と新しい地において、私たちが誘惑し、罪を犯させようとするものは一人もいないのです。私たちは、誘惑から完全に守られながら、平和で、喜びに溢れた世界で生きることになります。

## 結論)

みなさん、【主】を信じ従い続ける者と【主】に背き逆らう者の末路は明確です。【主】に従う者は、平和と喜びと【主】との交わりが与えられ、【主】に背く者には、悲しみと恥と滅びがまっています。

私たちはどちらを選ぶべきでしょうか。【主】に選ばれながらも【主】に背いたイスラエルと同じ歩みでしょうか。それとも、そのような人々の中でも【主】を信じ従い続けた「残りの民」と同じ歩みをするのでしょうか。

【主】は、残りの民のために素晴らしい世界を用意してくださいます。私たちはその【主】の約束を信じ、眼の前の悲しみに絶望することなく、期待と希望を持って【主】に従い続けていきましょう。

## 応答の時)

私たちは、この説教を通して、【主】に従う者と逆らう者との違いや、【主】が約束してくださる新しい天と新しい地の素晴らしさについて確認しました。

今、静かに応答の決心をする時を持ちましょう。

私は今、【主】のしもべとして歩んでいますか？

神様が私に用意してくださる約束の世界を、どのように受け止め、信じていますか？ この約束をしてくださる【主】に対してどのような応答ができるのでしょうか。

現実の困難の中で、【主】の約束により希望を見出すために、どのような一歩を踏み出せるのでしょうか？

しばらく黙想の時をもちましょう。